

総合評価

評価の観点	評価・課題・改善に向けて	評価委員講評
教育・保育の基本	<p>・「園の理念や方針などの説明を受けている」では2名の保護者が「あまりそう思わない」と回答している。理念、方針などについては玄関に貼り出しをし、入園のしおりに掲載したものを入園式で保護者に説明をし、ホームページにも載せているが、それでも伝わっていないものと思われる。折に触れて、分かりやすく説明をするような方法を考えたい。</p>	<p>・理念、方針、目標に基づき、日常の姿を写し取った資料が園内の環境に写し出され、「見える化」に努めている。 ・これからは「学び」と「自ら考える」ことが求められる。「あたりまえ」を見直しながら、新しい教育に向かっていきたい。保育者の「アンラーン」も大切。</p>
教育・保育の内容と質の向上	<p>・アンケート自体の言葉を「個性・意欲・自信」から、「優しい言葉かけをしているか、笑顔で挨拶しているか」などの保護者に分かりやすい質問にした方がいいのではないか。 ・「文化の伝承や思いやりの心が育っているか」では、保護者の高評価に対し保育者は低い。年齢別クラスで過ごすことが多くなったので、特に生活面で今までよりも異年齢の関わりが少なくなったからではないか。今年度の運動会では、異年齢が結びつき協力するようにと保育者が援助するのに例年よりも労力を要した。来年は時には異年齢で食事を摂ったり、年長児が年中・年少児の午睡をさせたりなど、意図的に生活面での異年齢の関わりを増やしたい。 ・3・4・5歳児保育者「保育の振り返り、改善を心掛けているか」について「そう思う」より「ややそう思う」が多いのは、行事の後の反省会以外に、日々の遊びの振り返りを全員で共有する場があまり持てなかった為と思われる。また個人が園の評価でなく自己評価として付けたのではないかと。来年度は各年齢のクラス担任が2名ずつ居るので、全員で集まるのが難しい場合も、事前に各クラスが意見を出し、代表が持ち寄るようにして振り返りの時間をもちたい。</p>	<p>・体系的な研修計画の下で、日常的に職員同士が主体的に学び合っている姿勢と環境がある。その質が、健やかに育つ子どもの環境であり、援助する力となっている。また月1回の園内研修だけではなく、保育者同士の対話や場をとらえて保育を考え合うことなど、日常の中にも自己研鑽の機会があることを意識し、保育の質を互いに高め合っていくことが大切である。保育者によって、言葉かけ一つにしても適切にしている人もいれば、子どもや保育への思いがあってもどうしても指示命令になってしまう人もいると思われる。それを改善していくのが主幹保育教諭の役割である。 ・保育の質の向上のために「公開保育」という研修方法があらこちらで取り上げられている。 ・異年齢編成が、質の向上になり得る部分と課題の部分を、考えていく必要がある。来年度は異年齢の関わりを意図的に増やしていくという課題が出ているが、集団で過ごす際の3歳児の気持ちや発達に配慮して、異年齢を慎重に取り入れてほしい。</p>
保健・環境	<p>・「安全・防犯に努めているか」について、0・1・2歳児保護者で「わからない」が4.2%、3・4・5歳児保護者で「あまりそう思わない」が2.6%。また「そう思う」は0・1・2歳児保護者より3・4・5歳児保護者の方が評価が高い。これは、0・1・2歳児はまだ避難訓練について話さないことから保護者には伝わりにくい為ではないか。毎月避難訓練については徹底をして行っているの、その内容や避難ルート、避難場所、保護者への迎えの連絡方法、避難にかかった時間などを掲示板などに貼り出しをし、保護者に知らせるようにしてはどうか。 ・3・4・5歳児保護者で「感染症を知らせたり、予防に努めている」と「やや思う人」が18.7%、「あまり思わない」が2.6%(1名)、「そう思わない」が2.6%。感染症というようにはっきりと病名がついたものは玄関に貼り出しをしているが、病名がつく前に流行している症状を早く知らせて欲しいのではないかと。また、0・1・2歳児クラスで流行している症状を3・4・5歳児クラスでは保護者に伝えていない、あるいはその逆もあるので、来年度ははやっている症状や病気、欠席者を全クラスが共通理解することができる取り組みをしたい。</p>	<p>・子どもが自らの体や健康に関心を持ち、心と体の機能を高めていく為の環境が配慮されている。遊びや生活の中で危機管理能力が育ち、安全な生活ができていく。</p>